

シエラレオネの貧困について考える

(総合的な学習「百合学院的人間学のススメ～国際理解～」高校2年生実践報告)

私立百合学院高等学校

教諭 内橋朋子

シエラレオネの貧困について考える

私立百合学院高等学校 教諭 内橋朋子

1 ねらい

本校はカトリックの学校で、毎年クリスマスに各学年に与えられたテーマにそって、それまでの授業で考えたことを発表することになっている。「百合学院的人間学のススメ」と名づけられたこの活動は、世の中の様々な出来事に目をやり、自分たちがどのように行動すべきかを考えるためのものである。高校2年生のテーマは「国際理解」で、今までも「貿易ゲーム」をしたり、「フェアトレード」について考えたりしてきた。今回は、学校で毎月10円募金（生徒が自分のおこづかいの中から募金する活動）をして送金している西アフリカの国シエラレオネを中心に学習し、貧困の実態とその原因を知り、自分達の募金の意味を考え、知ったこと考えたことを発表し、今後の募金活動をより意義あるものにしたいと考えた。

2 対象生徒

高校2年生 女子 84名

3 時期

2006年9月～12月

4 生徒の実態

毎月の10円募金では積極的に募金をするが、その募金の意味をあまり深く考えていないような生徒も多いように感じられた。かつて、シエラレオネで活動しておられるシスターのお話を聞き、その際はその事実に衝撃を受けた様子であったが、なにか遠いところのかわいそうな国というような感じがあるように思われた。

5 授業の実際

本校では2学期に集中的に「総合的な学習の時間」を実施する。高校2年生については「国際理解」というテーマにしたがって、各教科が関連する授業をし、ホームルームを中心に「シエラレオネ」に

ついて調べ、そこでわかった内容、感じたことをもとに、それを訴える絵本、詩をつくり、発表するという形をとった。

各授業における取組みは次のとおり

現代文	シエラレオネについて知る。 ユニセフのホームページより「シエラレオネ」に関連する記載を読み、まとめる。(5 時間)
古文	「花月草子」を読み、異文化を表面的に見て批判してはいけないという趣旨の文章を理解する。(2 時間)
英語	O G A T A S A D A K O (緒方貞子) ・ U N H C R (国連難民高等弁務官事務所)(5 時間)
宗教	無人島ゲーム (1 時間) 東北タイを救う 9 つのプロジェクト (1 時間)
ホームルーム	貿易ゲーム (2 時間) 貧困の輪 (1 時間) シエラレオネについて (3 時間) ムハマド・ユヌス氏について (1 時間) 映画「B L O O D D I A M O N D」についての記事を読む (1 時間) 詩の作成 (2 時間) 絵本の作成 (4 時間) ビデオ「生命の短いダイヤモンドの国」～黒柳徹子のシエラレオネ報告～を観る (1 時間) 発表会の練習・準備 (4 時間)
講演会	大学の先生による講演会「国際協力のための具体的提案」(1 時間)
発表会	(2 時間)

6 学習の効果

シエラレオネの実態を知ること以外に、宗教の授業では児童労働について考え、世界に存在する貧困の実態、それによってどのようなことが起きているかを知った。その後「貿易ゲーム」や「貧困の輪」などを行ない、貧困の原因についても考え、実感できたようだ。また、ノーベル経済学賞受賞のムハマド・ユヌス氏について知ることにより、貧困を救う方法があるということ、そして発想の転換が必要なことも感じた様子であった。そのほかにも「国際紛争の平和的解決」というテーマで大学の先生の話聞くことで、世界に広がる「力」で相手を抑えることによって紛争解決をする方法ではなく、対話によって解決する方法があるということにも気付いた。英語の授業では緒方貞子氏の話を読み、難民のために働く姿について知った。

この学習は、日頃 10 円募金という形で協力している「シエラレオネについて知ろう」ということで始まったが、その実態を知るうちに生徒たちは暗い悲しい気持ちになったようである。ダイヤモンドの利権を争って起こった紛争によって、多くの子どもたちが犠牲になっていること、世界で一番寿命が短い国と言われていることなどにショックを受けた。しかし、その原因を考えたり、世界でその紛争解

決や貧困問題に尽力している人達の姿や、その方法の柔軟さを知ることによって、様々な難しいと思われる問題の解決の可能性を見出し、そこに驚きと希望を見つけた様子であった。絵本や詩をつくるという作業を通して、より深くシエラレオネの人々の思いを想像することができたように思う。

「自分たちは募金しかできない」というような思いを持っていた生徒たちの中に、経済学や教育学などと自分たちの進路を考える時に、将来何か役に立つことができるのではないかという視点を持つものも出てきた。

この学習については、保護者の方にもコメントをいただいたり、クリスマスの集いで学年として発表することで、多くの人にシエラレオネの実態を知ってもらうことができた。

また、春休みには本校の教員3名がシエラレオネを訪問し、それに際して全校生、保護者、教職員から多くの募金、文房具などの寄付が集まった。訪問した教員の中には、以前よりシエラレオネ訪問を計画していた者だけでなく、この学習をきっかけに訪問した者もいた。帰国後、全校生に対して報告会も行なわれた。

7 資料

- 1 生徒の配布した学習プリント（各教科）
- 2 生徒の感想
- 3 発表会に掲示した資料
- 4 生徒の作文・詩
- 5 生徒作品 絵本
- 6 クリスマスの集いでの発表ビデオ